

福島で「徳川みらい学会」

県外初 会津との関わり語り合う

徳川時代の知恵や歴史の意義を研究、発信する「徳川みらい学会in会津」が6日、福

島県会津若松市で開かれた。静岡県外での開催は初。徳川宗家18代当主の徳川恒孝氏と

津松平家14代当主の松平保久氏らが徳川家と会津について思いを語り合い、2年後の戊辰戦争150年の節目への意識を高めた。

徳川氏は、会津藩が幕末以前から開国論を唱えていたのは、北方警備など外国船対策に多く携わり、「日本は海岸線が長すぎて防備には向かない」と実感

の意識を高めた。静岡商工会議所と徳川みらい学会の主催、会津若松商工会議所の協力。静岡市のほか、福島県の会津若松市や会津美里町、青森県むつ市、山形県米沢市、栃木

県日光市、愛知県岡崎市などから合わせて約400人が出席した。徳川氏と松平氏は「徳川家に息づく会津の魂」と題する鼎談(いだん)に臨んだ。国際日本文化研究センターの磯田道史准教授がコーディネーターを務めた。

松平氏は厳しい自分の父の教育を振り返り、「平和だからといって教育はたるみがあるってはいけない」と語った。会津藩の若殿の教育も一般藩士と変わらないほど厳しかったと解説。徳川氏も「素晴らしい会津藩の教えを今の学生につないでほしい」と継承の大事さ説いた。

会津と徳川について話す(左から)松平保久、徳川恒孝、磯田道史の各氏=6日、福島県会津若松市

徳川幕府について語る芳賀徹会長

徳川みらい学会会長の芳賀徹静岡県立美術館館長が講演し、徳川幕府による約200年の平和が文化や学問、芸術を開花させたと説明した。(福島民報)



会津と徳川について話す(左から)松平保久、徳川恒孝、磯田道史の各氏=6日、福島県会津若松市



徳川幕府について語る芳賀徹会長

徳川幕府による約200年の平和が文化や学問、芸術を開花させたと説明した。(福島民報)